

新下水処理システムの処理水の状態を確
認する小松電機産業の社員と雲南市職員
たち(小松電機産業提供)

小松電機産業

新下水処理システム開発

共NPOと同 汚泥出ず堆肥作りも



小松電機産業(松江市乃木福富町、小松昭夫社長)は、複数の微生物群を使うことで、農業集落排水の処理の過程で汚泥を出さずに処理水を堆肥(たいひ)作りなどに利用できる新しい下水処理システムを、佐賀県の民間非営利団体(NPO)などと共同開発した。六月から雲南市加茂町の加茂北浄化センターで実証実験を重ねてデータをまとめており、将来は全国に普及させたい考えた。

新システムは、光合成細菌や乳酸菌などを使って処理。下水処理で主流の活性汚泥法と違い、汚泥が出ず、悪臭もほとんどしない。

実験では汚泥処分が不要になることで、ばっ気時間がほぼ半減したほか、脱臭・換気装置の停止も可能となり電気代の節約につながった。さらに腐食性ガスが発生しないため、機器類やコンクリートの劣化も抑えられ、施設の長寿命化も期待できるなど維持費の削減にもなるという。

り、処理水の上澄み液を農作物に与えると品質向上や病害虫にかりにくくなることなども分かったという。

器類などを新たに設置すれば、新システムに移行できる。インターネットで遠隔制御する。小松社長は「塩素滅菌

同社と関連のエコ・サイエンス(佐賀県伊万里市)、NPO法人「循環型環境・農業の会」(佐賀市)が共同開発。既存の処理施設でも計器・機

が不要など環境負荷が少ない画期的なシステム。処理水を活用すれば、農業など地域の産業振興にも役立つ」としている。

